

## 令和6年度第2回学校運営協議会 提言・意見交換

10/25（金）14:00～15:30

於 地歴公民科教室

### <校内報告>

上沼校長

就職希望者の内定状況と部活動の大会実績等を報告。夏の中学生対象の学校説明会において、県内で数名の本校観光科に対する興味をもつ生徒がいた。

### <県外出張報告>

上沼校長

9月末に宮崎県の2校を視察。「地域みらい留学」実施校の中から本校同様に探究活動が活発で、観光地に隣接している点から訪問。両校とも常駐のコーディネーターを中心とする探究活動が実施され、一方特進コースの生徒に対して民間塾の設置するなど、地域のバックアップができています。

### <協議事項> 1. コミュニティファンドについて

おいでん・さんそんから本校へ会計事務局を移設することに伴う内規の変更を、臨時総会（本日）をもって議決・承認。

### 2. 下宿について

愛知県観光局局長：武田顧問

県としては全面的にバックアップしていきたい。

足助交流館長：宇和佐顧問

賛成であるが、下宿のルール作りにいろいろ課題があるのでは。

三州足助公社社長：岡村委員

下宿場所や金銭的な問題など課題は多いが、地域としては協力していきたい。

足助支所長：花木委員

県との調整を進めながら、地域の活性化を支援していきたい。  
魅力化部会と運営協議会の役割をもう少し明確化、整備すべきではないか。

足助商工会会長：村上委員

観光科の募集結果次第では、女子寮の復活も必要なのでは。

上沼校長

未耐震のため女子寮は使用できない。募集の見通しはまだ立たないが、数名の生徒が地域で下宿できる体制を整えたい。

足助まちづくり協議会代表：三宅委員

1年の猶予しかないため、早急にホストファミリー募集要項の作成が必要である。

みよし市教育委員会：山内氏

高校を核に地域に光があたる、地域に高校を無くさないことが重要。

愛知県観光局課長補佐：渡邊アドバイザー

「地域みらい留学」を検索してみると、アパートや空き家利用などの下宿以外の形式を採用している学校もみられるが、やはり下宿の方が安心。ホストファミリー受け入れについての議論が必要。

おいでんさんそんセンター：戸田委員

ホストファミリーがどれだけ生徒へのケアが必要になるのかなど細かい規定を提示できるようにしていく必要。耐震について、民家は問わないでいいものなのか。

足助高校PTA前会長：関原委員

魅力化部会の立場からは積極的に募集していきたい。生徒へのケアをどこまでホストファミリーにお願いするか、ホストファミリー以外の形態も含めて考えていきたい。

豊田市立稲武中学校長：山田委員

地域をつくる人材を育成する場として高校に期待している。下宿先として、旅館の空き部屋や公営住宅などが利用できないものか。また、地域の中で高校時代に下宿経験がある方ならば、快く引き受けていただけるのではないかと。

豊田市立旭中学校長：後藤委員

総論として賛成であるが、受け入れ側のコンプライアンスや相互のプライバシーの問題など様々なケースに対応できるように募集規約の作成が必要である。

足助高校同窓会長：鈴木会長

募集については、受け入れの有無の調査とともに課題の洗い出しを行い、魅力化部会で規約の作成を進めていく。